

水戸のあゆみ

～水戸空襲を考える～



弘道館周辺と水戸城の濠



保和苑と周辺史跡



偕楽園公園と千波湖周辺



水戸芸術館



市の木 (梅)



市の花 (萩)



備前堀



水戸市森林公園と楮川ダム



ダイダラボウと大串貝塚ふれあい公園

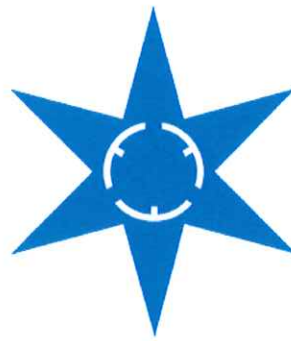


大塚池



市の鳥 (ハクセキレイ)

新水戸八景



水戸市章



みとちゃん

水戸市立第五中学校

3年 安藏 咲希

水戸空襲直後と現在の様子



戦災直後の水戸駅前



現在の様子



戦火に耐えた大銀杏



戦災直後の水戸郵便局前



現在の様子



水戸平和記念館 焼夷弾

曾祖母に戦争について聞いてみました。

私の曾祖母は昭和4年生まれで、戦時中や水戸の空襲を経験しています。私は曾祖母に戦時中の事や水戸空襲について聞いてみました。

Q・戦時中の事を教えてください。

A・戦時中は配給暮らしで生活物資が不足し、米だけでは足りなくてイモなどを混ぜて食べていました。蔵の中に米があると強権発動により強制的に供出させられました。自宅の真上から低空で機銃掃射が行われた事もあります。怖くて布団をかぶりました。今、カミナリが怖いのはこの時の銃声からきてるのかも知れません。電話局に勤めていた時、職場の2階から戦闘機の空中戦を見ました。日本の戦闘機が何機も撃墜されていました。しかし放送ではアメリカ軍の戦闘機を何機、撃墜などとされ日本が勝っていると思わされていました。

戦争が終わり、兄3人が戦地から帰って来ました。無事で嬉しかったのですが、近所の家では戦地から帰って来ない人もいたので、両親は喜んでばかりいられなかったのではないのでしょうか。

Q・水戸空襲の時の様子を教えてください。

A・当時はまだ15歳。水戸市の黒羽根町にあった電話局で電話交換の仕事をしていました。水戸空襲があった日は夜勤がなく、堀町の自宅に家族でいました。空襲警報のサイレンが鳴り水戸の町が焼夷弾で明るくなっていたので空襲に気づき、家族で近くの山に何も持たずに逃げました。深夜だけど昼のように明るく、針の1本まで分かるような明るさでした。

家は空襲があった場所から離れていたのが無事でしたが、職場の電話局は燃えてしまいました。夜勤をしていた同僚は全員逃げられて無事でした。桜川に飛び込んだそうです。朝になり水戸の町に向かうと、舗装された道はアスファルトが溶けてドロドロになり熱くて歩けません。途中、焼夷弾の弾片がたくさんあり、真っ黒な焼死体が何体もあったのでとても悲しい気持ちになりました。



曾祖母と私



戦争の話を聞いている様子



曾祖母 戦後間もない頃

(4) 研究のまとめ

郷土の歴史を調べて5年目の今回は、水戸市のこれまでのあゆみを調べました。

昨年は茨城県が誕生した経緯を調べ、茨城県の県庁所在地で、私が暮らしている水戸市の歴史を今回調べる事により郷土愛がより深まった感じがします。

理由は水戸の歴史はとても長い事が分かり、歴史を調べる事により水戸市はどのように成立したのか分かったからです。普段、何気なく生活している場所でも古い歴史があり、どの様な所なのか調べる事が大切だと思いました。

水戸市は市制がしかれた当初は小さな規模の市でした。昭和に入り周辺の村と合併し現在の水戸市域となります。私が住んでいる堀町は渡里村として昭和30年に水戸市に合併しました。昔の話を聞いていた時に、祖母は昭和29年生まれで渡里村の時に生まれたと聞きました。水戸市に合併した歴史はまだ浅いのだと感じました。

今回は水戸の戦時中の事や水戸空襲について、曾祖母から話を聞く事が出来ました。話を聞いて戦争という事がとても恐ろしい事だと再認識させられました。戦時中は人と人が争い、兵器を使って人を殺める。このような事がこれから先、おきてはいけないと思いました。

水戸空襲で焼け野原になってしまった水戸市は戦後、急速に戦災復興がされ発展していきます。空襲後の古写真を見た時に、銀杏の木に目が留まりました。現在でも大きな銀杏の木があります。焼夷弾で焼かれ全体が黒焦げになっても、新しい芽が出てよみがえり被災した人々に勇気を与えたと言う事がとても印象に残りました。

終戦から73年、戦争や水戸空襲は遠い時代の出来事になってきています。風化させないように私たちがこの悲劇を伝える事が出来るようにしていきたいです。曾祖母は水戸空襲の時まだ15歳でした。私と同じ年齢の時にこのような体験をした事になります。私には耐えられないと思いました。曾祖母は今年90歳になります。長生きしてこれからも色々教えてもらいたいです。

私が好きな言葉は「彰往考来」です。平成27年度に大日本史編纂について調べている時に、その言葉を知りました。意味は過去を知り未来を考える。歴史を知る事でその教訓を活かすと言う事です。郷土研究もこれに当てはまると思います。水戸には古い歴史があり、偉大な先人がたくさんいました。これからも歴史を調べ今後活かして行きたいと思います。

参考文献

- | | | | |
|------------|---------|----------------|------------|
| ・概説水戸市史 | (水戸市役所) | ・水戸の道しるべ | (水戸史学会) |
| ・水戸空襲戦災誌 | (水戸市役所) | ・水戸市の概要 平成29年版 | (水戸市役所) |
| ・水戸の町名 | (水戸市役所) | ・水戸の先人たち | (水戸市教育委員会) |
| ・水戸の近代100年 | (茨城新聞社) | ・これまで調べた郷土の資料集 | |